

2 0 0 0

授 業 概 要

【シラバス】

福祉援助学科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

目次 (福祉援助学科)

専門教育科目 (1年)

社会福祉概論 I	3
社会福祉概論 II	4
老人福祉論 I	5
老人福祉論 II	6
リハビリテーション論	7
レクリエーション活動援助法	8
老人の心理	9
障害者の心理	10
家政学概論 I	11
家政学概論 II	12
医学一般 I	13
医学一般 II	14
精神保健	15
介護概論 I	16
介護概論 II	17
介護技術 I	18
介護技術 II	19
介護技術 III	20
形態別介護技術 I (老人介護)	21
形態別介護技術 II (内部障害・肢体不自由・在宅介護)	22
形態別介護技術 IV (聴覚障害)	23
介護実習 I	24
介護実習 II	25
実習指導 I	26
福祉研究入門	27
家族福祉論	28
カウンセリング	29
発達心理学	30
シニアの音楽とダンス	31・32
遊びの造形	33

専門教育科目 (2年)

障害児・者福祉論	37・38
社会福祉援助技術論	39
社会福祉援助技術	40
レクリエーション指導法	41
障害者の心理	42
栄養・調理	43
家政学実習 I (栄養・調理)	44
家政学実習 II (被服・住居)	45・46
医学一般 I	47
医学一般 II	48
精神保健	49
介護技術 II	50
障害形態別介護技術 II	51・52
視覚障害援助技術	53
聴覚障害援助技術	54
介護実習 III	55
実習指導	56

卒業研究ゼミナール	57~61
地域福祉論	62
施設処遇論	63
ホスピスケア概論	64
カウンセリング	65
発達障害論	66
言語発達臨床論	67
視聴覚メディア活用法	68

專門教育科目（1年）

【授業科目】 社会福祉概論Ⅰ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①現代社会における社会福祉の意義・理念、社会福祉の基本的な考え方、②社会福祉の形成・発展過程及び社会福祉の推進要因、③社会福祉の法体系・制度及び財政全体の要旨、運営組織、福祉の措置、運営全体の概要、④社会福祉の基礎とする社会保障制度（所得、医療、住宅、雇用及び公的扶助など）の概要、⑤介護保険の内容と課題である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識を身につける。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2000年。</p> <hr/> <p>【参考書】</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 私たちの暮らしと社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉とは何か。</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の概念のとらえ方</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. イギリスの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. アメリカの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. スウェーデンの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業成立以前</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業成立期</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 戦後社会福祉の展開</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 社会福祉の法制</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 所得保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 医療保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 介護保険の内容と課題</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 社会福祉行政</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 社会福祉の財政</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)	2. 社会福祉とは何か。	(第2回)	3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)	4. イギリスの社会福祉	(第4回)	5. アメリカの社会福祉	(第5回)	6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)	7. 社会事業成立以前	(第7回)	8. 社会事業成立期	(第8回)	9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)	10. 社会福祉の法制	(第10回)	11. 所得保障制度	(第11回)	12. 医療保障制度	(第12回)	13. 介護保険の内容と課題	(第13回)	14. 社会福祉行政	(第14回)	15. 社会福祉の財政	(第15回)
1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)																														
2. 社会福祉とは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)																														
4. イギリスの社会福祉	(第4回)																														
5. アメリカの社会福祉	(第5回)																														
6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)																														
7. 社会事業成立以前	(第7回)																														
8. 社会事業成立期	(第8回)																														
9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)																														
10. 社会福祉の法制	(第10回)																														
11. 所得保障制度	(第11回)																														
12. 医療保障制度	(第12回)																														
13. 介護保険の内容と課題	(第13回)																														
14. 社会福祉行政	(第14回)																														
15. 社会福祉の財政	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 社会福祉概論Ⅱ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1 年 後期																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、②公務専門職員および民間専門職員による福祉活動や福祉社会確立の必要性、③社会福祉援助技術の概要および動向、④社会福祉の専門職の概要と福祉資格法の必要性および倫理的諸問題、⑤福祉ニーズとその変容、⑥在宅・地域福祉の現状と課題、⑦社会福祉をめぐる国内外の近年の動向、である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識と能力を得ることができる。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2000年。</p>																															
<p>【参考書】</p>																															
<p>授 業 計 画</p>																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 社会福祉の主体</td> <td style="text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉ニーズの分類</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉ニーズの把握</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉援助の意味</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の援助形態</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の援助方法</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉の専門性と業務内容</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉専門職の倫理</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 介護ニーズの社会的増大</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉士法の社会的意義</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 福祉士法の全体的内容</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 地域福祉の現状と課題</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 21世紀の社会福祉の傾向</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 総括</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 社会福祉の主体	(第1回)	2. 社会福祉ニーズの分類	(第2回)	3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)	4. 社会福祉援助の意味	(第4回)	5. 社会福祉の援助形態	(第5回)	6. 社会福祉の援助方法	(第6回)	7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)	8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)	9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)	10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)	11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)	12. 地域福祉の現状と課題	(第12回)	13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)	14. 21世紀の社会福祉の傾向	(第14回)	15. 総括	(第15回)
1. 社会福祉の主体	(第1回)																														
2. 社会福祉ニーズの分類	(第2回)																														
3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)																														
4. 社会福祉援助の意味	(第4回)																														
5. 社会福祉の援助形態	(第5回)																														
6. 社会福祉の援助方法	(第6回)																														
7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)																														
8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)																														
9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)																														
10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)																														
11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)																														
12. 地域福祉の現状と課題	(第12回)																														
13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)																														
14. 21世紀の社会福祉の傾向	(第14回)																														
15. 総括	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 老人福祉論 I	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 福祉援助学科 1年 前期	
【授業目標】 老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを目標に授業を進めていきます。 1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ 2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ 4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学ぶ 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について学び考える	
【参考図書】 「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣) 「老いと暮らす」 (岩波書店・安田陸男著) その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。	
【授業の進め方】 授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します	
【評価の方法】 授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。 評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、前期試験（テスト）70%で、その総合点で評価します。	

【担当科目】 老人福祉論 II	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 福祉援助学科 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期の「老人福祉論 I」授業を受け、介護福祉実習を控えて老人福祉の基本的視点を確立する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度について学ぶ 3. 自立とは何か、自立につながる援助とは何かを学ぶ 4. 在宅福祉への取り組み方について学ぶとともに、地域社会との連携の意義と方法について学ぶ 5. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ 6. 施設運営の円滑化、他業種との連携の意義と方法について学ぶ 7. 福祉労働の在り方について学ぶ 	
<p>【参考図書および教材】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」・・・（文理閣 松井一晃、児島珠理共著） 「障害者の自立と発達保障」 （全障研出版部 加藤直樹著）</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>第1、2期介護福祉実習を意識し、多くの学生が卒業後に就く介護福祉労働の理論と実践を常に結びつけられるよう、ビデオやディスカッションもとり入れダイナミックに授業が進められるよう努める。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、前期試験（テスト）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 リハビリテーション論	【担当者】 八重田 淳
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>心身に障害をもつ人をはじめ、様々な社会的ハンディキャップをもつ人々に対するリハビリテーションの基本原則、プロセス、自立支援の方法、社会生活能力とQOLの向上を目指した援助のあり方について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】 リハビリテーションの理念と実践～21世紀へのメッセージ～ 日本障害者リハビリテーション協会 総合リハビリテーション研究大会常任委員会編集 エンパワメント 研究所発行、筒井書房発売、1997年発行、定価2,800円</p>	
<p>【参考書】 リハビリテーションの理論と実際 上田敏編、セミナー介護福祉、ミネルヴァ書房、1996 年発行、定価2,600円</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>原則として、以下の講義内容に沿って講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションと福祉 2. リハビリテーション医学 3. リハビリテーションカウンセリング心理学 4. 諸外国におけるリハビリテーション実践 5. 我が国におけるリハビリテーション実践 6. リハビリテーション関連政策の国際比較 7. 身体障害者のリハビリテーション 8. 知的障害者のリハビリテーション 9. 精神障害者のリハビリテーション 10. 児童のリハビリテーションと障害児教育 11. 高齢者のリハビリテーションと介護 12. リハビリテーション工学と環境整備 13. 職業リハビリテーション 14. 社会リハビリテーション 15. 総合リハビリテーションによる連携 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業態度を含む出席状況、授業時間内で行う課題の達成度、筆記試験により、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 レクリエーション活動援助法	【担当者】 三木 和子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉領域におけるレクリエーションの概念、ならびに利用者のQOLの向上にも直結するレクリエーション援助の意義を理解し、レクリエーション活動の援助技術のステップアップを目指します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「レクリエーション援助法」 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「福祉レクリエーション・実践マニュアル」 中央法規</p>	
授 業 計 画	
<p>講義 1. レクリエーションの概念と意義</p> <p>講義 2. 利用者理解の重要性</p> <p>講義 3. レクリエーション援助の実践</p> <p>演習 1. レクリエーション活動の体験学習</p> <p>演習 2. コミュニケーションの技法</p> <p>演習 3. 個別援助の実際</p> <p>演習 4. 集団援助の実際</p> <p>講義 4. 援助技術のステップアップ</p> <p>講義 5. レクリエーション活動の援助計画</p> <p>演習 5. プログラム計画</p> <p>講義 6. 社会福祉の領域におけるレクリエーション援助者に求められること</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席点を重視）とレポートによる</p>	

【授業科目】 老人の心理	【担当者】 安藤孝敏
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、高齢者の心理的特徴についての基礎的な知識を学ぶことにより、支援したり介護したりする高齢者をより深く理解できるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>長嶋紀一・佐藤清公（編） 介護福祉士選書7「老人心理学」 建帛社 2000年</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化の概念 2. 老年期の認知機能 3. 老年期の知能 4. 老年期の人格 5. 老年期の適応 6. 老年期の精神的問題 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況により評価する</p>	

【授業科目】 障害者の心理	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 前 期	
【授業目標】 1. 障害者の心理的特性を理解し、援助者としての基礎を学ぶ。 2. 福祉援助者としての援助の技法や実際について学ぶ。 3. 今後の障害福祉の動向を踏まえた上で、自分が学ばなければならない課題について考える。	
【テキスト】【参考書】 授業になかで配布するプリント・テキストを中心に進める。 授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>以下のような内容について、資料・ビデオを使用しながら進める。 各単位ごとに、小テストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者の心理を理解する視点 <ul style="list-style-type: none"> ・障害とリハビリテーション ・心理的特性と心理的問題およびその要因 2. 障害の種類と心理的特性 <ul style="list-style-type: none"> ・運動障害と心理的特性 ・内部障害と心理的特性 ・感覚障害と心理的特性 ・コミュニケーションの障害と心理的特性 ・精神の障害と心理的特性 3. 障害者の心理的問題を理解する技法 <ul style="list-style-type: none"> ・心理検査法 ・面接・相談技法 ・心理療法 4. 障害の受容に向けての援助 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容に向けての援助 ・障害の受容へ向けての援助の実際 ・障害の受容と家族 5. リハビリテーションにおける心理的援助の実際 6. 環境とのかかわりのなかでの心理的援助 <ul style="list-style-type: none"> ・人的環境と障害者援助 ・物的環境と障害者援助 ・社会環境と障害者援助 7. 現在の障害者福祉の動向と求められる援助者の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の自己決定権とアクセス権の保障権利擁護 	
【評価方法】 ①授業ごとの小テスト ②定期試験 ③出席点 <div style="text-align: right;">での総合評価</div>	

【授業科目】 家政学概論Ⅰ	【担当者】 風見公子
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 1. 身体の生理機能と栄養の関係について理解させる。 2. 高齢者、障害者児の栄養摂取など、食生活のあり方について理解させる。 3. 食品衛生を含んだ食品についての知識を学ばせる。 4. 調理の概要について理解させる。	
【テキスト】 山口和子 編著 「改訂 栄養・調理」 建帛社	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 身体の機能と栄養素 1) 栄養摂取の意義と口腔からの食物摂取 2) 栄養素の機能とその消化吸收 3) 栄養所要量 4) 食事リズム 5) ストレスと栄養 2. 高齢者・障害者（児）と栄養 1) 高齢者の栄養と食生活のあり方 2) 障害者（児）の栄養と食生活のあり方 3) 生活習慣病予防と食事 3. 食品・調理 1) タンパク質性食品の性質と調理特性 2) 脂肪性食品の性質と調理特性 3) 炭水化物性食品の性質と調理特性 4) 食品成分の変化 5) 食品の保存性と安全性 6) 食べ物の嗜好性、おいしさ 7) 調理器具、設備、エネルギー源	
【評価方法】 試験 および 出席状況	

【授業科目】 家政学概論Ⅱ	【担当者】 中川英子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は介護の基礎となる家庭生活全般の意義を理解し、経営・管理する能力を養うこと、 延いては介護福祉士としての実践能力をもつ人材を育成することを目標としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士養成講座8 「家政学概論Ⅱ」 福祉士養成講座編集委員会・編 中央法規出版（株）2000年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>図説 家庭科資料集 岩崎芳枝 監ほか 実教出版（株）1998年</p>	
授 業 計 画	
<p>「家政学」は家庭生活を中心とした人間生活について現代的課題を研究している学問で、その領域には、家庭経営・食生活、被服生活、住生活（ほかに児童）の専門分野が含まれている。本講義ではそのうち介護福祉士養成教育の必修科目の一つとして位置付けられている「家政概論Ⅱ」として家庭経営、被服生活、住生活の3つの分野について概説する。併せて毎回上映するビデオによって、授業内容の理解を深める。</p> <p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第2～6回 家庭生活の意義と経営・管理 ：家庭生活にかかわる基本的知識をふまえたうえで、家庭生活の意義や現代的課題を考える。 同時に高齢者や障害者の家庭生活についても理解を深める。 1) 家庭生活の意義 2) 家庭生活と家庭経営 3) 家庭生活と家庭管理 4) 家庭経済</p> <p>第7～10回 被服生活 ：被服についての基本的な知識をふまえたうえで、被服生活の意義を考える。さらに保健・衛生的で生活に適応的なことが最も要求される高齢者や障害者の被服生活について考える。 1) 被服の役割と機能 2) 被服の素材と品質 3) 被服と皮膚衛生 4) 被服の選択と管理 5) 高齢者・障害児者と被服</p> <p>第11～13回 住生活 ：”家庭生活の容器”というべき住居について生活するひとの行動を環境面から理解したうえで、住生活の意義を考える。さらに高齢者や障害者にとっての快適な住まいや、よりよい住まい方について考える。 1) 住居の役割と機能 2) 生活行動と生活空間 3) 快適な室内環境 4) 住居の管理と安全 5) 高齢者・障害児者と住居</p> <p>第 14 回 総括および介護福祉士国家試験問題「家政学概論」のチェック</p> <p>第 15 回 試験</p> <p>註) 上記の授業計画は、授業の実施回数によっては変更もありうる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト、レポートの評価に加えて、授業態度・出席率なども評価の対象とする。</p>	

【授業科目】 医学一般 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人体の解剖・生理を中心に学習する。これらを基礎として、肢体不自由や内部障害・加齢現象や加齢による障害の理解をはかる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店)</p> <hr/> <p>【参考書】 人体の構造と機能 エレイン N. マリーブ著 (医学書院) 介護福祉士養成講座 14 障害形態別介護技術 (中央法規)</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人体の解剖学・生理学—人体の各部の名称と構成、機能の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳・神経系 2) 循環器系 3) 呼吸器系 4) 消化器系 5) 泌尿器系 6) 生殖器系 7) 内分泌系 8) 血液系 9) 感覚系 10) 運動系 <p>2. 肢体不自由や内部障害の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 肢体不自由とは <ol style="list-style-type: none"> ① 脳卒中後遺症による肢体不自由 ② 脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチによる肢体不自由 2) 内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 心機能障害 ② 呼吸機能障害 ③ 腎機能障害 ④ 消化器機能障害 <p>3. 高齢者の心身機能障害に対する理解</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 医学一般II	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能の総合的理解をはかる。 2. 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解を基礎として、高齢者と高齢者疾患に対する理解を深め、その対処法を習得する。 3. 福祉現場で遭遇する代表的疾患の理解をはかる。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="padding-left: 40px;">介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="padding-left: 40px;">ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規)</p> <p style="padding-left: 40px;">エキスパートナース 内科疾患看護マニュアル (小学館)</p> <p style="padding-left: 40px;">看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 (中央法規)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官の構造と機能の理解と、臓器相互関係の理解も図る 2. 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 老人特有の症候の理解と対処法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 意識障害 2) 不眠 3) 転倒 4) 尿失禁 5) めまい 6) 誤嚥 7) 腰痛 8) 脱水・浮腫 9) 便秘 10) decubitus 11) 譫妄 12) 手足のしびれ など ② 老年者の救急疾患と対策：心臓血管系疾患・精神神経疾患・呼吸器疾患・消化器疾患での救急時の症状理解とその対処法の修得。 ③ ターミナルケア：ターミナルケアの捉え方と理想的なターミナルケアの在り方を考える 3. 代表的疾患の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系；高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈など 2) 脳・神経系；脳血管障害・神経痛・末梢神経障害・パーキンソン病・脳性麻痺 脊髄小脳変性疾患・筋疾患・など 3) 内分泌・代謝系；糖尿病・痛風・甲状腺機能亢進症と低下症・高脂血症など 4) 腎・泌尿器系；尿路感染症・前立腺肥大症・前立腺癌・膀胱癌・腎不全など 5) 血液系；貧血・成人 Tcell 白血病・悪性リンパ腫など 6) 呼吸器系；肺炎・結核・インフルエンザ・ARDS 7) 消化器系；肝炎・出血性大腸菌感染症・消化性潰瘍など 8) 各種感染症；法定伝染病・指定伝染病・食中毒・日和見感染・MRSA など 9) 筋・骨・関節系；骨折・脊髄損傷・骨粗鬆症・変形性脊椎症・慢性関節リウマチなど 10) 癌・生活習慣病 11) 難病・先天性疾患 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 精神保健	【担当者】 宮崎清
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の今日的意義について理解させる。 2. ライフサイクルにおける精神保健の役割について理解させ、合わせて、精神障害の基礎知識や精神保健行政などについて理解させる。 	
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編集 三訂介護福祉士養成講座 11 精神保健 中央法規</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の基本知識 2. ライフサイクルにおける精神保健 胎児期および乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期 3. 精神保健における個別課題への取組 精神障害者対策、老人性痴呆対策、アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策、精神保健に関する調査研究 4. 精神障害の基礎知識 5. 精神保健活動の実際 家庭、学校、職場、地域 6. 世界の精神保健 世界の精神保健の現状と問題 	
<p>【評価方法】</p>	

【担当科目】	介護概論 I	【担当者】	関谷 榮子
【開講期】	1 年 前 期		
【授業目標】	1. 介護の目的と機能、介護援助の基本的理念および原則を理解する。 2. 人間の発達と自立的生活の過程についての知識を持ち、高齢者や障害者及びその家族に関する介護ニーズを把握し問題の解決方法を学ぶ。 3. 介護福祉士に必要な援助方法の理論と実際を学ぶ。		
【テキスト】	テキスト 介護概論 メジカルフレンド社		
【参考書】	講義の中で随時紹介する。		
授 業 計 画			
1. 介護の概念 <ul style="list-style-type: none"> 1) 介護の目的・定義（根拠法規：社会福祉士・介護福祉士法 自立支援 人権尊重) 2) 介護の倫理（職業倫理、守秘義務、信用失墜行為の禁止） 3) 介護の領域（関係領域） 4) 介護の歴史 			
2. 介護援助の方法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 介護援助の原則（自己決定 自己選択） 2) 介護援助関係（対人援助の技法 日常生活援助） 3) 介護過程（科学的問題解決技法） 4) 介護援助技術（観察、コミュニケーション、記録、報告） 			
3. 介護援助の対象 <ul style="list-style-type: none"> 1) 利用者の理解（高齢者及び障害者） 2) 利用者の援助課題（身体的生活援助 文化的・社会的な生活援助） <ul style="list-style-type: none"> (1) 自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能 (2) 健康のメカニズムと健康障害時のニーズと介護の役割 (3) 高齢者、障害者（児）の生活障害と介護の役割、QOL向上 (4) 終末ケア、緊急時の対応における介護の役割 (5) 地域ケア 在宅ケア 			
4. 介護管理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境の整備 (2) 安楽と安全 (3) 社会生活の維持と拡大 (4) 生活リズムと健康習慣の維持 (5) 労働安全、事故防止 			
【評価方法】	レポート 及びペーパー試験		

【担当科目】 介 護 概 論 Ⅱ	【担当者】 関谷 榮子
【 開講期 】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人たちの身体・精神的健康状態の変化に対応した介護援助サービスの提供方法、提供の場について理解する。 2. 介護と家政、看護・医療など関係領域や関係職種との連携について理解する。 3. 個別介護計画及び、ケアプランの作成方法を学び、ケア・マネージメントについて理解する。 4. 自己の介護観を確立する。 	
<p>【 テキスト 】</p> <p style="text-align: center;">テキスト 介護概論 メジカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】 講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護活動の場に特有の問題と介護の技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入居型福祉施設（長期、短期） 2) 居宅型福祉施設（在宅支援センター、デイサービス、ホームヘルプサービスなど） 3) 地域における福祉関係者との連携・協力方法 2. 個別介護計画（ケアプラン）のたて方と応用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護計画と記録の方法、活用方法、評価方法 2) ケースカンファレンスの方法 3) ケア・マネージメントの方法 4) ケアプランの作成と応用方法 3. 関係機関、関連領域との連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護と家政、看護・医療、家政管理、栄養調理、リハビリテーション部門との連携及び業務範囲について学ぶ 2) 地域関係機関との連携、地域ケア部門との連絡連携 4. 介護観の確立へ向けての自己学習課題の設定 	
<p>【評価方法】 レポート 及びペーパー試験</p>	

【授業科目】 介護技術 I	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 (介護技術 I II III 共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編集『三訂介護福祉士養成講座 介護技術』中央法規</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1 コミュニケーションの技法</p> <p>1) 傾聴</p> <p>2) 面接時の洞察、共感の技法</p> <p>3) 言葉や身振りの理解と問題確認の技法</p> <p>4) 自己の役割を伝え、納得と合意をうる表現技法</p> <p>2 状態の変化の確認と不調のきざしの発見の技法</p> <p>1) 眠りかたや目覚めの状態の変化</p> <p>2) 体温、脈拍、呼吸、皮膚の状態の変化</p> <p>3) 嚥下の状態や排泄物の変化</p> <p>4) 状態に対する理解力、判断力の変化</p> <p>5) 感情の変化</p> <p>6) 視覚、聴覚及び知覚の変化</p> <p>3 安全で危険のない住いや居住環境の整え</p> <p>1) 移動スペースに応じた住いの配置、位置、高さ</p> <p>2) 浴室、トイレ、台所等の居住環境の整え</p> <p>3) プライバシー空間の設営</p> <p>5) 衣類、寝具の衛生管理並びに掃除、ベットメイキング</p> <p>4 社会生活維持拡大への技法</p> <p>1) 体位変換と安楽な体位の工夫(用具の用いかた)</p> <p>2) 歩行介助、車椅子、ストレッチャー介助</p> <p>3) ベット上の座位、立位の介助</p> <p>4) 機能維持の運動と機能訓練への援助 つどい、外出、遠足(遠出)など</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートとテストにより評価する。</p>	

【授業科目】 介護技術Ⅱ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通) 1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。 1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。 2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。 2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。 3 介護過程の展開方法について学ぶ。	
【テキスト】 福祉士養成講座編集委員会編集『三訂介護福祉士養成講座 介護技術』中央法規	
【参考書】	
授 業 計 画	
1 衣服の着脱 2 食事 食事場所や食器等用具の整え、姿勢や口の状況に適した介助・好みへの配慮と食事量の観察、誤飲防止・脱水防止 3 身体の清潔 口、目、耳、鼻、爪等・頭髪の清潔法、清拭法（全身・部分）、部分浴（手浴・肘浴・足浴） 入浴法（家庭浴槽、簡易浴槽、機械浴、一般浴） 4 排泄 トイレでの排泄介助、ポータブルトイレ・便器・尿器による排泄介助、排泄の自立度に応じた衣類寝具の選択と介助、失禁時の対応と排泄自立への配慮と介助、便秘・下痢等の対応、おむつ交換、摘便、膀胱留置カテーテルの知識 5 安楽と安寧の技法 指圧・マッサージ、巻法、安眠への援助 6 福祉用具の概要と活用 福祉用具の意義、概要関福祉用具の選択、活用及び管理にする援助 7 医療、看護対応時の介助 受診時の介助、薬の管理と与薬時の介護 8 じょく創予防と創の手当ての基礎知識 9 感染予防 10 危篤時の介護と死後の処置 11 緊急事故時の対応 救急法（消防署による普通救命講習）、応急手当て、事故時の対応と保健医療福祉関係者等への連絡	
【評価方法】 レポートとテストにより評価する。	

【授業科目】 介護技術Ⅲ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編集『三訂介護福祉士養成講座 介護技術』中央法規</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定法</p> <p>2 介護過程の展開</p> <p>1) ケアマネジメントとケアプラン</p> <p>2) ケアプランと介護過程</p> <p>3) 事例に基づく介護過程の展開 アセスメント、介護計画の作成、実施、評価</p> <p>3 記録のとり方と報告のしかた</p> <p>1) 記録の種類と方法、保管</p> <p>2) 報告のしかた</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートとテストにより評価する。</p>	

【担当科目】 形態別介護技術 I (老人介護)	【担当者】 近江谷 キヌ子
【開講期】 1 年 前 期	
【授業 目標】 1. 要介護高齢者のもつ生活障害について総合的な視点で理解する。 2. 要介護高齢者のもつ日常生活上の介護ニーズを把握し、介護援助展開の技法を学ぶ。 3. 加齢による生活障害を軽減する方法を学び実践を通して高齢者への援助方法を習得する。 4. 生活障害を軽減するための福祉機器・用具に関する知識及び活用方法を習得する。	
【テキスト】 ----- テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p> 1. 要介護高齢者の心理と、障害をもつことにより発生する生活の障害及びその人間を総合的に理解する。 2. 要介護高齢者の精神的・身体的状況を理解し、介護ニーズを把握し、介護援助展開の技法を学ぶ。 3. 障害による生活の不自由を軽減し自己実現、あるいはQOL向上をめざした生活支援の方法を学ぶ。 4. 福祉用具の知識と活用方法を学ぶ。 ・当事者事例や家族支援の事例などをとおして援助の実際及び応用方法を学ぶ。	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 形態別介護技術 II (内部障害・肢体不自由・在宅介護)	【担当者】 新井 幸恵
【開講期】 1 年 後 期	
【授業 目標】 1. 肢体不自由者（児）・内部障害者・精神障害者の医学的知識及び生活障害に関する総合的知識を学ぶ。 2. 肢体不自由者（児）・内部障害者・精神障害者の日常生活上の介護・援助方法について体系的に学ぶ。 3. 肢体不自由者（児）・内部障害者・精神障害者のケア・マネジメント、ケアプランのたて方を学ぶ。 4. 在宅ケア地域ケアの展開方法、関係領域との連携方法を理解する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 参考書、資料、ビデオなどを講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
1. 肢体不自由者（児）・内部障害者・精神障害者の医学的知識及び生活障害に関する総合的知識を深める。 2. 肢体不自由者（児）・内部障害者・精神障害者の精神的・身体的介護ニーズを理解する。 3. 肢体不自由者（児）、内部障害者、精神障害者に対する介護・援助の具体的な方法について学ぶ。 4. 実習などの体験から得られた知識・技術をもとに、援助理論を理解しその応用方法について学ぶ。 参考文献等を読み、介護・援助の有るべき姿を自分なりにまとめる。 5. 肢体不自由者（児）内部障害者、精神障害者などのケア・プラン、ケア・マネジメントの方法を理解する。 情報収集、アセスメント、ケアプラン、実施、再アセスメントの過程を理解し、施設実習で応用できる能力を身につける。 6. 障害者や高齢者の地域ケアについて学び、組織の一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。 7. 障害者の介護を提供する施設の特徴を理解し、チームワーク、連携方法について理解する。	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【授業科目】 形態別介護技術Ⅳ（聴覚障害）	【担当者】 奥田啓子
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害に関する医学的基礎知識を理解する。 2. 聴覚障害者の生活、心理に配慮した介護のあり方を考える。 3. 残存感覚機能の特性を理解し、その活用法を習得するとともに、音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。 4. 聴覚障害に他の障害が加わった重複障害者の介護について考える。 	
【テキスト】 「手にことばを（初級）」 東京都聴覚障害者連盟発行	
【参考書】 「わたしたちの手話（1）」 全日本ろうあ連盟発行	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害者の日常生活 2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法 3. 介護上の諸問題への対応（具体的な事例を通しての考察） 4. 残存感覚機能を活用するための福祉用具について 5. 聴覚障害者と社会生活（情報保障等の問題について） 6. 手話の基礎的知識と指文字の習得 7. 日常生活場面での手話表現 8. 簡単な日常会話 9. 特に介護場面で想定される会話の手話表現 10. 歌の手話表現 <p>* 聴覚障害という状況への理解を通し、介護に当たる姿勢のあり方を学んで欲しい。聴覚障害について考える上でコミュニケーションの重要性はキーポイントであるが、この講義においても、双方向の学び合いを目指している。積極的な授業への参加を期待する。</p>	
【評価方法】 授業への参加意欲等の平常点と筆記試験によって評価する。	

【担当科目】 介護実習 I	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第 I 期（見学実習）</p> <p>(1) 施設の設置理念、運営方針、沿革、施設職員の種類、業務内容を知る。</p> <p>(2) 施設における介護職員の役割を理解し基本的な日常生活上の介護援助技術を習得する。</p> <p>(3) 施設利用者の身体的精神的状況及び社会的背景等を理解して個別的なケアのありかたを学ぶ。</p> <p>(3) 他職種との連携、地域における施設の位置づけなどを知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<p>1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。</p> <p>2. 介護者の援助の視点と方法を把握し、施設職員としてふさわしい態度を学ぶ。</p> <p>3. 利用者の身体的、精神的状況を理解する。</p> <p>4. 利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>5. ボデイランゲージなどの非言語的コミュニケーションの有効な活用方法を習得する。</p> <p>6. 日常生活の援助の方法を習得する。</p> <p>7. 利用者に行われている介護技術の目的と意義を理解し基礎的な介護技術を実践する。</p> <p>実習期間 2000年11月6日か25日までの18日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 介護実習 II	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】	1 年 後 期
【授業 目標】 実習第Ⅱ期（参加実習） （１）利用者の障害のレベルに応じた介護技術を習得する。 （２）施設における他職種の業務の実際について理解を深め、関連部門との連携方法を学ぶ。 （３）地域社会における施設の役割を理解し在宅福祉サービスの各事業とその機能について学ぶ。 （４）受け持ち利用者を選定しアセスメント（情報収集と介護課題の分析）の方法を習得する。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】	
実 習 計 画	
1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。 2. 利用者の障害に応じた個別的な介護技術を習得する。 3. 他職種の業務を理解し、関連部門との連携方法を学ぶ 生活指導員、医師、看護婦、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、の業務を見学しおのおの職種の役割を知る。また介護職員との連携の方法を学ぶ。 4. 地域における施設の役割を理解する。 ショートステイ、デイサービス、入浴サービス在宅介護支援センター、ホームヘルプの機能について学ぶ。 5. 受け持ち利用者のアセスメントの方法を学ぶ。 1) 実習期間中に実習指導者の助言を得て受け持ち利用者を選定し、その人の情報収集を実施する。 2) 受け持ち利用者の介護上の課題を分析する。 その際には利用者の持つ力をひきだして残存機能を活用に努力し、その力を強めるような援助の視点を重視する。（エンパワーメントという。） 6. ケア会議に参加し利用者のケアプランが作成評価される過程を学ぶ。 7. 行事・レクリエーション活動への参加 行事レクリエーション活動に参加し、企画・実施・評価のプロセスを学ぶ。 実習期間 2001年2月19日から3月10日までの18日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導 I	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>(1) 体験学習の意義と重要性について理解する。 (2) 体験学習を通じて学内で学んだ知識・技術、態度を具体的かつ実際的に応用する能力を身につける。 (3) 学校内において習得した諸学習を応用し施設実習において実践的な技術を体得する。 (4) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。 (5) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 実習第 I 期に向けての準備</p> <p>1) 課題に関するグループ討議 2) 学内における介護技術実習 3) 施設見学 4) 配属施設の決定</p> <p>2. 実習第 I 期に向けての準備</p> <p>1) 実習前のオリエンテーション ・実習目的の理解 ・自己学習目標をたてる。 2) 実習の注意 ・プライバシー保護など介護福祉士の倫理綱領学習 ・見学実習の意義 3) 事前学習、事前オリエンテーション 4) 実習記録 ・記録の意義と書き方 ・記録の取扱い方</p> <p style="text-align: center;">— 第 I 期介護実習（2000年11月6日～25日 18日間）—</p> <p>3. 第 I 期実習後のスーパービジョン</p> <p>1) グループスーパービジョン 2) 記録の評価 3) 実習のまとめ 自己評価 4) 個別面接</p> <p>4. 第 II 期実習に向けての準備</p> <p>1) 配属施設の決定 2) 介護過程（介護計画の立案、実施、評価）についての学習 3) 個別面接</p> <p>5. 第 II 期実習後のスーパービジョン</p> <p>1) グループ討議 2) 実習のまとめ</p>	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【授業科目】	福祉研究入門	【担当者】	明渡陽子・鍾家新・中山幸代・山口尚子・西方規恵																																										
【開講期】	1 年 前 期																																												
【授業目標】	1. 福祉研究に対する関心を深め研究的態度の初歩を学ぶ。 2. 文献抄読、文献研究の初歩的な方法を理解する。 3. 小グループのディスカッションを体験して、他の人の意見を傾聴したり自分の考えをまとめることを体得する。																																												
【テキスト】	【参考書】																																												
授業の中で、適宜、提示する。																																													
授 業 計 画																																													
<p>授業形態としては、全体会方式と小グループ方式で行う。 授業進行・内容およびグループ分けの方法については、全体会および随時、提示するがおおむね以下のような内容を進める。</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス</td> <td>(全体会)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>小グループディスカッション</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>文献抄読 A</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>文献抄読 A</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>文献抄読 A</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>文献抄読 B</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>文献抄読 B</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>文献抄読 B</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>文献抄読 C</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>文献抄読 C</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>文献抄読 C</td> <td>(グループ別)</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>課題 A</td> <td>(全体会)</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>課題 B</td> <td>(全体会)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>まとめ</td> <td>(グループ別)</td> </tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	(全体会)	第 2 回	小グループディスカッション	(グループ別)	第 3 回	文献抄読 A	(グループ別)	第 4 回	文献抄読 A	(グループ別)	第 5 回	文献抄読 A	(グループ別)	第 6 回	文献抄読 B	(グループ別)	第 7 回	文献抄読 B	(グループ別)	第 8 回	文献抄読 B	(グループ別)	第 9 回	文献抄読 C	(グループ別)	第 10 回	文献抄読 C	(グループ別)	第 11 回	文献抄読 C	(グループ別)	第 12 回	課題 A	(全体会)	第 13 回	課題 B	(全体会)	第 14 回	まとめ	(グループ別)
第 1 回	ガイダンス	(全体会)																																											
第 2 回	小グループディスカッション	(グループ別)																																											
第 3 回	文献抄読 A	(グループ別)																																											
第 4 回	文献抄読 A	(グループ別)																																											
第 5 回	文献抄読 A	(グループ別)																																											
第 6 回	文献抄読 B	(グループ別)																																											
第 7 回	文献抄読 B	(グループ別)																																											
第 8 回	文献抄読 B	(グループ別)																																											
第 9 回	文献抄読 C	(グループ別)																																											
第 10 回	文献抄読 C	(グループ別)																																											
第 11 回	文献抄読 C	(グループ別)																																											
第 12 回	課題 A	(全体会)																																											
第 13 回	課題 B	(全体会)																																											
第 14 回	まとめ	(グループ別)																																											
【評価方法】	①平常点 ②レポート から評価する																																												

【授業科目】 家族福祉論	【担当者】 直井道子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族が社会の変化とともに変化してきたことを理解したうえで、家族員の福祉のために家族ができることと、その限界とを示す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】 落合恵美子 21世紀家族へ 有斐閣 1994 直井道子 高齢者と家族 サイエンス社 1993</p>	
授 業 計 画	
<p>第1回 家族とは何か</p> <p>第2回 家族と社会のつながり</p> <p>第3回 家族の変化と社会の変化(1)</p> <p>第4回 家族の変化と社会の変化(2)</p> <p>第5回 いろいろな家族がある 家族の機能</p> <p>第6回 子供と家族(出産、共働き、離婚と養育問題)</p> <p>第7回 子供と家族(2) (子供の育ち方と児童虐待)</p> <p>第8回 青年期と家族(家庭内暴力、不登校、未婚期の長期化)</p> <p>第9回 高齢者と家族 扶養と介護</p> <p>第10回 労働の問題、階層と家族</p> <p>第11回 住まいと家族</p> <p>第12回 家族の働きと限界</p> <p>第13回 福祉コーディネーターとしての家族</p> <p>以下、時間の余裕に応じて、まとめ、討論、</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 カウンセリング	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>福祉援助の方法の一つとしてのカウンセリングの役割について紹介します。</p> <p>カウンセリングの分野を概括し、来談者中心カウンセリングと、認知行動療法を中心に授業を進めます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使いません。</p> <p>指定図書：割り当てられた週に利用して下さい。</p> <p>図書館に指定図書を何種類か、用意してあります。</p> <p>1週間借り出して、簡単な内容紹介と、感想文をレポート1枚程度にまとめて出して頂きます。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの役割 悩む人と、悩ますもの（ストレッサー）について 2. カウンセリングの分野の概括 カウンセリング、心理療法と人間観 3. カウンセリングの進め方 VTRを利用します。 4. 来談者中心カウンセリング概説(1) 序 5. 同 (2) Rogersの適応論と人格論 6. 行動療法と認知行動療法 VTRを利用します。 7. 認知行動療法の概括 Beckの立場 Ellisの立場 8. 認知行動療法の技法(1) Self-monitoring, 他 9. 同 (2) 認知の歪みのチェック 10. 同 (3) 現実検証, 日誌, 思考停止法, 他 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点, 中間試験, レポートで評価を行います。</p>	

【授業科目】 発達心理学	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 前 期	
<p>【授業目標】</p> <p>1. 生涯発達学の視点から、人の育ちについて乳幼児期・児童期・青年期・成人／老年期の各時期の基本的な心理発達のメカニズムを学ぶ。</p> <p>2. 現在社会における「生涯発達が抱える問題」について、発達障害児および社会的適応困難児などを中心に考える。</p>	
<p>【テキスト】【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜、提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 生涯発達とはなにか －ライフサイクルとライフステージについて －「発達」における2つの意味</p> <p>2. 乳幼児期の発達 －対人世界の基礎：愛着の形成 －コミュニケーションの発達と障害 －遊び；仲間集団との関わり</p> <p>3. 児童期の発達 －社会的コンピテンス －自我形成</p> <p>4. 青年期の発達 －心理的葛藤 －社会的参加と自己確立</p> <p>5. 成人／老年期の発達とは</p> <p>6. 発達障害とは ； 障害特性と行動特徴の理解 －「特別なニーズ」という概念 －発達遅滞(知的障害)、自閉性障害をもつ人の理解 －学習障害(特異性発達障害)をもつ人の理解 －注意欠陥／多動症候群(ADHD)をもつ人の理解</p> <p>7. 社会的適応困難とは ； 精神的問題を抱える子どもの理解 －「適応行動」ということ：幼児期の適応とは －不登校の子どもたちの理解 －「引きこもり」とは</p> <p>8. 地域での発達支援とは －地域生活援助のシステム(学童保育の実際、レスパイトサービス他) －支援のための福祉サービスの実際</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①出席点 ②授業への参加態度 から評価する</p>	

<p>[授業科目名] シニアの音楽とダンス</p>	<p>[担当者] 秋山治子</p>
<p>[開講期] 1年 前期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>音楽のある生活を更に心やすらげる空間と時間に作りあげて、高齢者に提供することを考え、工夫する。そのための音楽力、音楽性を養うために、音楽療法の楽しいセッションの模倣や検証をとりいれながら授業を進めてゆく。 授業の方法は実際に歌をうたったり、音楽療法のビデオを観たり、あそびを考案するなど実践的に行っていく。 またもう一つの目標として施設で活用出来る「大正琴」の初歩を身に付けることを考えている。</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>授業の初めに適宜指定する</p> <p>[参考書]</p> <p>高齢者の音楽療法：貫 行子</p>	
<p style="text-align: center;">授業計画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽療法のビデオを観て皆で感想などを出し合う。 授業の概要を説明する。 2 高齢者に人気の“昔の歌”をうたう（CDに収録されている曲がある時はそれを聴いてイメージなどを出し合いながらすすめていく） 大正琴の初歩を学ぶ。（数字による楽譜でだれでもすぐ理解できます） 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 全員で分担して高齢者にとって無理のない“音楽を使った遊びとゲーム”を考え実践してみる。 	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業にたいする取組み方、出席 2 授業中に行う小テストとレポート 	

【授業科目】 シニアの音楽とダンス	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>リズムカルに身体を動かしたり、身体で表現する活動を通して、踊る楽しさや表現する喜びを体験し、表現力を高め、その文化的価値を認識する。また、楽しいダンスの援助の方法を探求する。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見られる身体表現とダンス ・ダンスの特性と意義 <p>(2) ダンスの内容、技術の習得を通して踊る楽しさ、表現の喜びを味わう</p> <p>①リズムカルに身体を動かすことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの体操やストレッチ ・フォークダンス ・社交ダンス ・音楽によってリズムカルに全身を動かす <p>②歌いながらリズムカルに表現力豊かに動くことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・歌を伴った遊び <p>(3) ダンスの楽しい援助の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に身体を動かし楽しむ ・あるがままを受けとめ気持ちを共有する ・豊かな感性、創造的な援助 	
<p>【評価方法】</p> <p>1 授業に対する取組み方、出席</p> <p>2 授業中に行う実技試験と平常点</p>	

【授業科目】 遊びの造形	【担当者】 八木 紘一郎・ 枝常 弘
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>遊びや生活を潤す創意工夫と意欲が減退しがちな状況と環境の中で、積極的に自らの手と思考によって、心身の活性化を促す遊びを創出し享受する技術および援助方法を修得させる。具体的には、身近な素材や用具を使い、個人及び集団でゲーム的な遊び、ストーリー的な遊びを創作するアイデアと娯楽的要素をもった援助方法を演習及び実習で身につけさせる。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 造形と遊びの関係 現代社会における造形と遊びの意義 造形と遊びの原理 造形遊びの種類と特性</p> <p>2. ストーリー性のある遊び ストーリー性のある遊びの種類としくみ 指導の仕方</p> <p>3. 物理的な力を利用する遊び 物理的な力を利用する遊びの種類 その楽しみ方と指導方法 飛ばす、ころがす、回転させる、浮力を使う、当てる、倒す、</p> <p>4. ゲーム的な遊び 物理的な力を原理にしたゲームの工夫 楽しみ方と指導の仕方</p>	
【評価方法】	

專門教育科目（2年）

【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 友田 篤
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害者福祉の理念、実態、歴史、法制度、最近の福祉改革など、基本的なことを学習する。障害者には様々な種類と次元があり、援助のアプローチがあるので、実践現場を紹介しながら理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>障害者福祉論 社会福祉士養成講座 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>障害者問題の基礎知識 石渡和実 明石書店 五体不満足 乙武洋匡 講談社 現代の障害者福祉 定藤丈弘他 有斐閣</p>	
授 業 計 画	
<p>① 障害とは何か。多様な障害者の実態。 ② 障害者福祉の理念（基本的な考え方）。 ③ 障害者を取り巻く歴史の概観。 ④ 障害者関係法。 ⑤ 障害者施策の体系。 ⑥ 最近の福祉改革の動向。 ⑦ 障害者福祉サービス。 ⑧ 人権と権利保障 ⑨ 社会福祉施設での援助の実際</p> <p>他、随時内容を調整しながら授業する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験あるいはレポートを予定。出欠状況、授業態度を勘案する。</p>	

【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害を持つ子が地域の中で当たり前生活が出来るための福祉の在り方を学び、障害を持つ子への理解を深め、療育及び生活支援の在り方を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>その都度プリントを配布する。授業の過程で参考図書を紹介する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 障害を持ちながら生きるということは</p> <p>2 障害を持つ人たちの歴史</p> <p>3 教育・療育の可能性を求めて</p> <p>4 早期発見・早期治療及び療育の現状</p> <p>5 養護と教育の構造</p> <p>6 共に生きる地域の暮らし、共生の理念</p> <p>7 障害を持つ人たちの世界各国の生活と福祉</p> <p>8 障害児福祉の構造</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1-学期末テスト 2 小レポート 3 出欠の状況・授業の取り組み</p>	

【授業科目】 社会福祉援助技術論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士の実践にとって必要な社会福祉援助技術の大意を理解する。 2. 社会福祉援助技術の方法および内容について理解する。 3. 他の専門職とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高める。 4. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の意義および概要について理解する。 	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士と社会福祉援助技術 2. 個別援助技術（ケースワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別援助技術の意義・機能・原則・展開過程など 3. 集団援助技術（グループワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 集団援助技術の意義・機能・展開過程など 4. 地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域援助技術の意義・機能・展開過程など 5. 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、チームワークなど）の理解 6. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の理解 7. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助技術	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉援助技術の理論について演習で理解を深めるとともに、応用能力を向上させ介護福祉としての社会福祉援助技術を修得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人や障害者の事例をとりあげ、社会福祉援助技術について具体的に検討することにより、その実際の活用について理解する。 2. 事例に基づき、居宅サービス計画および施設サービス計画の実際を演習する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 レクリエーション指導法	【担当者】 浮田千枝子・村松節子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護の現場で必要とされるレクリエーション活動援助に関する基本的な知識や技術、援助者の役割と態度について学ぶ。また、介護現場でのレクリエーションの計画技術や援助実践能力の習得に力点を置き、個人ニーズの理解に基づいた利用者に応じたレクリエーション援助の展開法について演習形式で学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『レクリエーション活動援助法』中央法規出版</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><前 期></p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②コミュニケーション・ゲーム ～お互いに知り合う ③レクリエーションとは何か～レクリエーションの基本的理解～ ④～⑥レクリエーションと社会福祉～福祉サービス利用者の生活の特徴／生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化／社会福祉とレクリエーションの歴史～ ⑦⑧レクリエーション援助実践実技（グループで楽しむ） ⑨～⑪レクリエーション活動援助計画Ⅰ（グループで楽しむ）～目的、援助計画の作成～ ⑫レジャー・カウンセリングの考え方と方法 ⑬まとめ <p><後 期></p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション、レクリエーション活動援助の場面～介護実習を素材に～ ②レクリエーション活動援助の場面（続き） ③～⑤レクリエーション活動援助の考え方と方法～個人とレクリエーション／レクリエーション援助の体系とプロセス／グループの活用～ ⑥～⑪レクリエーション活動援助・個別援助計画の立て方とすすめ方 利用者の理解・アセスメント／利用者にあわせたレクリエーション財の体験とアレンジの仕方／援助計画づくり／実習 ⑫利用者あわせたレクリエーション活動援助の実際～高齢者へのレクリエーション活動援助の展開法、形態別レクリエーション活動援助の展開法 ⑬まとめ～レクリエーション活動援助者の役割 	
<p>【評価方法】</p>	

【授業科目】 障害者の心理	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 前 期	
【授業目標】 1. 障害者の心理的特性を理解し、援助者としての基礎を学ぶ。 2. 福祉援助者としての援助の技法や実際について学ぶ。 3. 今後の障害福祉の動向を踏まえた上で、自分が学ばなければならない課題について考える。	
【テキスト】【参考書】 授業になかで配布するプリント・テキストを中心に進める。 授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>以下のような内容について、資料・ビデオを使用しながら進める。 各単位ごとに、小テストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者の心理を理解する視点 <ul style="list-style-type: none"> ・障害とリハビリテーション ・心理的特性と心理的問題およびその要因 2. 障害の種類と心理的特性 <ul style="list-style-type: none"> ・運動障害と心理的特性 ・内部障害と心理的特性 ・感覚障害と心理的特性 ・コミュニケーションの障害と心理的特性 ・精神の障害と心理的特性 3. 障害者の心理的問題を理解する技法 <ul style="list-style-type: none"> ・心理検査法 ・面接・相談技法 ・心理療法 4. 障害の受容に向けての援助 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容に向けての援助 ・障害の受容へ向けての援助の実際 ・障害の受容と家族 5. リハビリテーションにおける心理的援助の実際 6. 環境とのかかわりのなかでの心理的援助 <ul style="list-style-type: none"> ・人的環境と障害者援助 ・物的環境と障害者援助 ・社会環境と障害者援助 7. 現在の障害者福祉の動向と求められる援助者の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の自己決定権とアクセス権の保障権利擁護 	
【評価方法】 ①授業ごとの小テスト ②定期試験 ③出席点 <div style="text-align: right;">での総合評価</div>	

【授業科目】 栄養・調理	【担当者】 風見公子
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 1. 身体の生理機能と栄養の関係について理解させる。 2. 高齢者、障害者児の栄養摂取など、食生活のあり方について理解させる。 3. 食品衛生を含んだ食品についての知識を学ばせる。 4. 調理の概要について理解させる。	
【テキスト】 山口和子 編著 「改訂 栄養・調理」 建帛社	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 身体の機能と栄養素 1) 栄養摂取の意義と口腔からの食物摂取 2) 栄養素の機能とその消化吸收 3) 栄養所要量 4) 食事リズム 5) ストレスと栄養 2. 高齢者・障害者（児）と栄養 1) 高齢者の栄養と食生活のあり方 2) 障害者（児）の栄養と食生活のあり方 3) 生活習慣病予防と食事 3. 食品・調理 1) タンパク質性食品の性質と調理特性 2) 脂肪性食品の性質と調理特性 3) 炭水化物性食品の性質と調理特性 4) 食品成分の変化 5) 食品の保存性と安全性 6) 食べ物の嗜好性、おいしさ 7) 調理器具、設備、エネルギー源	
【評価方法】 試験 および 出席状況	

【授業科目】 家政学実習Ⅰ（栄養・調理）	【担当者】 風見公子
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 1. 障害者（児）や高齢者の食事に関する援助の基本的な方法について実習によって学ばせる。 2. 施設実習などで経験した食事介助のあり方、食品衛生の管理の方法を実習と関連させながら理解させる。	
【テキスト】 ① 教師作成のプリント ② 足立己幸 著 「主食 主菜 副菜料理成分表」 群羊社	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 基本的な調理操作、及び調理器具の扱い方を日常の家庭料理の実習を通じて学ぶ。 2. 献立作成・栄養価計算 自分の食事記録及び、その診断によって望ましい食事構成のあり方を学ぶ。また、実際に献立作成したもので調理実習も行う。 3. 障害者（児）・高齢者にとって望ましい食事を、主に食物形態の変化を中心に実習し学ぶ。 4. 障害者（児）・高齢者の食行動を理解する為の実習を行う。又、実際的な食事の援助方法を学ぶ。加えて、衛生管理を行う。 5. 嗜好調査の方法と分析方法を演習する。	
【評価方法】 試験もしくは課題レポート 及び 出席状況	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ(被服・住居)	【担当者】 定行まり子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 住居は、我々人間が生活を営む上で、最も基本的な場である。人間及び家族が拠り所としている住居は、安全であり、快適であることが望まれる。そこで、本授業では個々人や家族、また特に、高齢者や子どもが安全で、快適に暮らすための住居や住生活の計画・管理についての実践力を養うことを目標としている。	
【テキスト】 後藤久 他「基礎シリーズ住居学入門」実教出版 随時プリントなどを配布。講義中に参考図書を紹介する。	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">授業は、講義と演習及び実地見学などが計画されている</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活様式と住居 2. 健康的で快適な室内環境 3. 住居の管理 4. これからの住まいと生活 <p><設計演習></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 住居の設計 6. バリアフリー設計 <p><見学実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 住宅都市整備公団試験場 	
【評価方法】 出席・小テスト・レポート課題・設計課題	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ(被服・住居)	【担当者】 山本良子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>衣生活の管理に関する技術を実習を通して習得させ、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援に必要な実践的な経営能力を養わせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>家政学実習ノート 佐々井 啓編 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>家政学実習 大谷 陽子編 建帛社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実習 素材表示に示されている繊維の簡単な見分け方の実習</p> <p>2) 布地の性能に関する実習 布地の種類、構造の観察実習</p> <p>3) 被服管理実習 洗濯、漂白、しみ抜き、のり付け、仕上げ、保管その他</p> <p>4) 高齢者や障害者のための被服のデザイン・構成、色彩、及び着脱の工夫等、 体型・障害の例による使いやすい被服の検討を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習レポート</p>	

【授業科目】 医学一般 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人体の構造と機能の総合的理解をはかる。 2.胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解。 3.福祉現場で遭遇する代表的疾患の理解と疾病対処法を学習する。 	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)</p>	
<p>【参考書】</p> <p>ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規) エキスパートナース 内科疾患看護マニュアル (小学館)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官の構造と機能の理解と、臓器相互関係の理解も計る 2. <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による老化の理解—定義・特徴・学説・老化に影響する因子など 2) 老年病の特徴の理解 3) 老化と各種疾患 4) ターミナルケア 3. 代表的疾患の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系；高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈など 2) 脳・神経系；脳血管障害・神経痛・末梢神経障害・パーキンソン病・脳性麻痺 脊髄小脳変性疾患・筋疾患・など 3) 内分泌・代謝系；糖尿病・痛風・甲状腺機能亢進症と低下症・高脂血症など 4) 腎・泌尿器系；尿路感染症・前立腺肥大症・前立腺癌・膀胱癌・腎不全など 5) 血液系；貧血・成人 Tcell 白血病・悪性リンパ腫など 6) 呼吸器系；肺炎・結核・インフルエンザ・ARDS 7) 消化器系；肝炎・出血性大腸菌感染症・消化性潰瘍など 8) 各種感染症；法定伝染病・指定伝染病・食中毒・日和見感染・MRSA など 9) 筋・骨・関節系；骨折・脊髄損傷・骨粗鬆症・変形性脊椎症・慢性関節リウマチなど 10) 癌・生活習慣病 11) 難病・先天性疾患 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 医学一般II	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.わが国の保健・医療・福祉の歴史と現状対策の理解をはかる。 2.医療法制度の概要の理解。 3.医療関係者とのスムーズな連携のために… 医療・福祉現場で必要とされ、理解していたほうが better な知識の習得。 4.介護福祉士自身の健康増進・管理法の習得。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念とわが国の健康水準 2) 公衆衛生の動向 <ol style="list-style-type: none"> ①人口統計 ②疾病と受療状況 ③医療関係者の現状 ④医療施設の現状 ⑤医療保障制度 3) 保健医療対策の概要 <ol style="list-style-type: none"> ①老人保健対策 ②精神保健対策 ③生活習慣病対策 ④母子保健対策など 4) 健康増進施策 5) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 —食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス— 2. 医事法制の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法 2) 医師法 3) 保健婦助産婦看護婦法 3. <ol style="list-style-type: none"> 1) カルテ (医療情報提書) の読み方 2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解 3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿) 4) 入所者の全身状態の把握の仕方 5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置 4. 介護士自身の健康管理法介護士が職務上注意すべき疾患とその予防法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の原則 2) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 3) 注意すべき疾患とその予防法 腰痛症 (ヘルニア・坐骨神経症・脊柱官狭窄症・すべり症など) 手足のしびれ 感染症 (肝炎・結核・介せんなど) など 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 精神保健	【担当者】 渡邊 衡一郎
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>こころの時代といわれる現代社会において、精神的健康をいかに増進していくかを、各年代・各生活の場での特有の精神保健上の問題を念頭におきながら考えていく。また精神障害についての理解を深め、バリアフリーを目指していく。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】 精神医学ハンドブック第3版 山下格 日本評論社 精神医学テキスト 南江堂（4月15日刊行予定） 精神保健入門 八千代出版（近刊）</p>	
授 業 計 画	
<p>{授業計画} 概ね下記の内容で講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健（メンタルヘルス）の概念、基礎知識について解説する。 2. 児童、思春期、成人期、老年期各ライフサイクルの段階における重要な課題について理解する 3. 家族、学校、職場、地域他、現代社会における精神保健について具体的に考える。 4. 精神保健福祉の理念（精神障害者と人権保障、精神障害者の社会復帰）について理解する。 5. 精神分裂病、躁うつ病、神経症、痴呆、中毒性精神病他、個々の精神疾患を通じて精神障害について幅広く考える。 6. 医療法、障害者基本法、地域保健などの精神保健福祉に関する法規、精神保健福祉センター、保健所他、精神保健福祉関係機関等について学習する。 	
【評価方法】	

【授業科目】 介護技術Ⅱ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通) 1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。 1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。 2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。 2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。	
【テキスト】 福祉士養成講座編集委員会編集『三訂介護福祉士養成講座 介護技術』中央法規	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 安楽と安寧の技法 指圧・マッサージ、巻法、安眠への援助 2 福祉用具の概要と活用 福祉用具の意義、概要関福祉用具の選択、活用及び管理にする援助 3 医療、看護対応時の介助 受診時の介助、薬の管理と与薬時の介護 4 じょく創予防と創の手当ての基礎知識 5 感染予防 6 危篤時の介護と死後の処置 7 緊急事故時の対応 救急法（消防署による普通救命講習）、応急手当て、事故時の対応と保健医療福祉関係者等への連絡 8 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定法 9 記録のとり方と報告のしかた <ol style="list-style-type: none"> 1) 記録の種類と方法、保管 2) 報告のしかた 	
【評価方法】 レポートとテストにより評価する。	

【担当科目】 障害形態別介護技術 II (肢体不自由/内部障害・高齢者の介護)	【担当者】 新井 幸恵
【開講期】 2 年 前 期	
【授業 目標】 肢体不自由者（児）・内部障害者・高齢者のもつ生活障害について総合的な視点で理解し介護ニーズを把握する方法を学ぶ。 肢体不自由者（児）・内部障害者・高齢者の日常生活上の介護援助技法を学ぶ。 生活障害を軽減するための福祉機器・用具に関する知識及び活用方法を習得する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害を持つ人々の心理や障害に応じた介護ニーズを理解し、自己実現及び生活支援の方法を学ぶ。 2. 肢体不自由者・児、内部障害者の精神的・身体的状況を理解し、介護の方法を学ぶ。 障害に起因する生活上の不自由を軽減し、自己実現、Quality of Lifeの向上を目標とした生活支援の方法を学ぶ。 3. 痴呆高齢者、障害高齢者、脳神経疾患、内部障害、骨関節疾患、難病などの疾病や障害の特性に対応した介護援助法を学ぶ。 4. 心身障害者（児）、重複障害者（児）の特性に対応した介護援助方法を学ぶ。 5. 福祉用具の知識と活用方法を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者事例や文献、ビデオなどをとおして個別ケア例から学ぶ。 ・福祉用具の知識と活用方法について実際の使用例から学ぶ 	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 障害形態別介護技術 II (肢体不自由/内部障害高齢者の医学的知識)	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 2 年 前 期	
【授業 目標】 肢体不自由者（児）及び内部障害者の生活障害の原因となる医学的知識を学ぶ。 要介護高齢者（虚弱高齢者、痴呆性老人）の生活障害の原因となる医学的知識を学ぶ。 要介護高齢者・肢体不自由者（児）及び内部障害者の日常生活上の介護ニーズ把握し、介護上の課題を分析する方法を学ぶ。 福祉機器・用具の知識と個々の介護ニーズに対応する活用方法を習得する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 （中央法規出版 k k）	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由者（児）・内部障害者の個別の精神的・身体的状況に関する医学的知識と介護ニーズを把握する方法を学ぶ。 2. 脳神経疾患、内部障害、骨関節疾患、難病に罹患した人々の医学的知識を学び、介護ニーズを把握する方法を学ぶ。 3. 痴呆性老人、加齢による虚弱高齢者の身体的・精神的問題の原因に関する医学的知識を学び、介護ニーズを把握する方法を修得する。 4. 心身障害者（児）、重複障害者（児）、精神障害者などに関する医学的知識を学び、介護ニーズを把握する方法を修得する。 <p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害とその後遺症（片麻痺）に関する医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・失語症、失認症などのコミュニケーション障害者の医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・脊髄損傷者の医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・脳性麻痺及び先天性四肢欠損者の医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・重複障害者（児）の医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・精神障害者の医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 ・痴呆性老人、虚弱老人、加齢に伴う心身障害に関する医学知識と介護ニーズの把握方法を学ぶ。 <p>既存ビデオや障害者の生活の記録を紹介し医学知識と介護ニーズに対応する援助技法を考える。</p>	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【授業科目】 視覚障害援助技術	【担当者】 直居鉄
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>視覚障害といっても、障害の程度（見え方）、障害の発生原因とその時期、今後の進行予測など個人によって様々である。いずれにしても、日常生活において受ける影響は大きくその克服は容易ではない。その障害を克服して社会的に自立するために必要な援助について学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>視覚障害者の介護技術、点字の本</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>視覚障害に関連する医学的知識として、目の構造と機能、視覚障害の原因となる疾病、残存感覚の働きと活用などの基礎的な知識を学習する。</p> <p>厚生省による身体障害者・児実態調査を参考資料として、視覚障害者・児の状況、教育、職業、日常生活の現状においてどのような場面にどのような援助が必要であり、その具体的な方法を学習する。</p> <p>視覚障害による歩行・移動の障害に対する介護技術を学習する。</p> <p>視覚障害は、日常生活のあらゆる分野において情報の入手が困難であり、そのために情報障害者ともいわれている。パーソナルコンピュータを始めとする情報機器やシステムの急速な発達の実状とその活用に対するどのような援助が必要であり、その具体的方法に関する知識技能を学習する。点字、音訳（朗読）の基礎的な知識技能を学習する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目】 聴覚障害援助技術	【担当者】 奥田啓子
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害に関する医学的基礎知識を理解する。 2. 聴覚障害者の生活、心理に配慮した介護のあり方を考える。 3. 残存感覚機能の特性を理解し、その活用法を習得するとともに、音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。 4. 聴覚障害に他の障害が加わった重複障害者の介護について考える。 	
【テキスト】 「手にことばを（初級）」 東京都聴覚障害者連盟発行	
【参考書】 「わたしたちの手話（1）」 全日本ろうあ連盟発行	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害者の日常生活 2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法 3. 介護上の諸問題への対応（具体的な事例を通しての考察） 4. 残存感覚機能を活用するための福祉用具について 5. 聴覚障害者と社会生活（情報保障等の問題について） 6. 手話の基礎的知識と指文字の習得 7. 日常生活場面での手話表現 8. 簡単な日常会話 9. 特に介護場面で想定される会話の手話表現 10. 歌の手話表現 <p style="margin-top: 20px;">* 聴覚障害という状況への理解を通し、介護に当たる姿勢のあり方を学んで欲しい。聴覚障害について考える上でコミュニケーションの重要性はキーポイントであるが、この講義においても、双方向の学び合いを目指している。積極的な授業への参加を期待する。</p>	
【評価方法】 授業への参加意欲等の平常点と筆記試験によって評価する。	

【担当科目】 介護実習 Ⅲ	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】 2 年 前 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第Ⅲ期（総合実習）</p> <p>(1) 受け持ち利用者の介護計画を立案、実施、評価し利用者理解を深める。</p> <p>(2) 夜勤などの変則勤務を体験し利用者の24時間の生活を理解する。</p> <p>(3) 介護福祉士としての自己覚知をもち、自己の介護観を述べることができる。</p> <p>(4) 第Ⅲ期終了後、自己の介護実践過程を分析しレポート作成の方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>実習要項他</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<p>1. 介護計画の立案、実施、評価の方法を習得する。</p> <p>1) 受け持ち利用者の全体像を把握し問題を明確にしたうえで介護計画を作成する。</p> <p>2) 介護計画の内容については実習指導者の助言を得た後に実践する。</p> <p>3) 日々の実践記録を作成し、効率的な記録方法を修得する。</p> <p>2. 夜勤実習を原則的に1回以上体験する。 利用者の24時間の生活援助を経験する。</p> <p>3. 介護福祉士としての資質、適性を身につける</p> <p>1) 実習を通して学んだ介護者としてのあり方、介護援助内容を分析しレポートを作成する。</p> <p>2) 介護福祉士としての自己覚知を深める。</p> <p>3) 自己の介護観を明確にする。</p> <p>実習期間 2001年9月3日から29日までの24日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 実習指導	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】	2 年 前 期 ・ 後 期
<p>【授業 目標】</p> <p>(1) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に实际的に応用する能力を身につける。</p> <p>(2) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質・技能及び課題分析能力などの総合的能力を修得する。</p> <p>(3) 受け持ち利用者の個別介護計画を立て、実施し評価する方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>	
<p>実習指導Ⅱ (2年前期)</p> <p>〔実習前〕</p> <p>実習第Ⅱ期のスーパービジョン及び第Ⅲ期実習に向けての準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第Ⅱ期実習後のスーパービジョン 2) 第Ⅲ期実習配属施設の決定 3) 受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、問題発見と分析 4) 介護計画の立案、実施、評価 <p style="text-align: center;">－ 第Ⅲ期介護実習期間－</p> <p>2000年9月3日から29日までの24日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p> <p>実習指導Ⅲ (2年後期)</p> <p>〔実習終了後〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第Ⅲ期介護実習のまとめ 2) 第Ⅲ期実習後のスーパービジョン 3) 受け持ち利用者のケーススタディ・レポートを作成する。 	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉施設・医療現場で使用される医療機器の理解 2. 医療と福祉の連携に関する本の輪読 	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1: 福祉施設に入所している高齢者や在宅高齢者の多くは、介護面からのケアと同時に医療的処置を必要としている場合が多い。このような高齢者に、質の高い医療・福祉を提供するためには医療スタッフ以外の介護職も基本的な医療機器の知識をもつことは、緊急時などに医療スタッフと共に協力して高齢者に対処することができるし、介護福祉士の自信にも繋がる。また、将来これらの知識を持つ事を公に要求される時期がくることも予想される。よって、その機器がどのような機器であり、その機器を使用する目的（どういう状況の時に使用するか）は何か、管理上の留意点などの理解をめざす。</p> <p>入手できる機器があれば、学生同志でお互いに測定し合う・それらを装着して体験を試みる。また、実際に医療機器が使用されている福祉現場や医療現場の見学し、それらの理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血圧測定・脈拍測定・体温測定の仕方 2) 心電図の原理解と測定法 3) バルーンカテーテルとは、その安全管理法 4) 中心静脈栄養とは、その原理と管理上の留意点 5) ストマ（人工肛門）の取り扱い方と留意点 6) 在宅酸素療法と酸素ボンベ・酸素マスクの取り扱い方 7) 喀痰吸引機の取り扱い方と留意点 8) 点滴セットの取り扱い方と留意点 9) 超音波エコー・CT・MRI・レスピレーター・パルスオキシメーター などの適応と目的の理解 など <p>2: 医療と福祉の接点に関連する本を数冊皆で選び、分担を決めて読み、担当者の内容説明を中心にして、皆で discussion し理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点とレポート</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】 国際比較の視点からつぎの二つの課題を取り上げる。①女性福祉の問題。今日までの社会福祉政策は、暗黙のうち、基本的に男性社会を前提に制定・実施されてきた。本ゼミナールでは、女性の視点から社会福祉制度・政策について体系的に検討を行う。②死の受容の問題。介護を職業とする学生にとって、死に関する理解は不可欠である。日本人はどのような死生観をもっているか。死をどのように受容してきたか。本ゼミナールの参加によって、学生たちは、福祉政策及び死に対する理解力・異文化的に福祉を考える力・文献の読む力・表現力を高めることができ、福祉援助者としての心構えと考える力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】 授業中に紹介する。</p>	
<p>【参考書】 授業中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>つぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>一 女性の視点からみる社会福祉の問題点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 仕事・家庭・福祉と女性 ② 高齢化社会と女性 ③ 女性と年金 ④ 女性と介護 <p>二 現代人の死の受容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現代社会と死 ② 老人たちの死の受容 ③ 死の恐怖を軽減する方法 ④ 遺族の死の納得 	
<p>【評価方法】 発表・報告・感想文・討議の発言・出席などにより総合的に評価する。</p>	

【担当科目】 卒業研究 ゼミナール	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 2 年 前 ・ 後 期	
【授業 目標】 1. 地域の障害者や高齢者の人たちの生活の様子を学び、介護援助の課題を考える。 2. 学生自身の問題意識を尊重し体験学習を通じて実践的に学ぶ能力を養う。	
【テキスト】	
【参考書】 ゼミナールの中で紹介する。各自で見つけるのもよい	
授 業 計 画	
<前期> 学内の活動 参考書やビデオなどから各自で学び抄読会を行う。 地域活動 在宅の障害者や高齢者の家庭を訪問し直接当事者の方々から話を聞く。 <後期> 地域活動を継続し、レポートにまとめる。 在宅ケアのあり方をまとめる。 学生同士のボランティア活動に協力したり、ゼミ運営は学生自身の自主活動とする。	
【評価方法】 出席点、 レポート・その他により評価する。	

「授業科目名」 卒業研究ゼミナール	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 2年 前期・後期	
「授業目標」 介護を必要とする人を含めて、家族・友人・地域における人間関係は希薄になっている。ゼミを通して人間の共生のあり方を探る。	
「テキスト・参考書」 そのつど必要な文献や資料を収集して研究をすすめる	
授 業 計 画	
<p>1 私たちの目指す介護福祉士に最も必要なことは、人間理解に基づく人間の尊厳を大切にすることである。人間との豊かな共感性を基盤にした関係性の深さを実現させていくことをゼミの目標として研究をすすめる。</p> <p>2 このような視点から、ゼミでは各自が自主的に課題やテーマを持ち、その解明に向けて努力することによって研究をすすめる。</p> <p>3 人間がどのように生きる事にかかわったかを、小説、手記、記録、その他の資料を収集して研究をすすめる。</p> <p>4 新聞、テレビ、VTR等からタイムリーな問題について協議する。</p> <p>5 実習を通して、体験した事実から人間理解及び人間関係の在り方を探る。</p> <p>6 各自の研究成果を報告し合いながら課題を探究し、その結果をまとめる。</p>	
「評価方法」 1 ゼミへの積極的な参加姿勢を評価する 2 研究テーマへの取り組みや成果について評価する	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の援助技術について理解すると共に、社会福祉の専門性について考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人々が実際に生活している地域社会において、どのような福祉問題がおきているのか、また、それらに対して誰がどのような立場で、どのような援助技術をもって援助をおこなっているかについて、文献研究や事例研究などから具体的に学んでいく。そして、社会福祉援助の実践をになう社会福祉専門職としての力量を高めていきたい。</p> <p>また、その中で各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションをとおして、お互いに学び合っていく関係をつくっていききたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点により評価する。</p>	

【授業科目】 地域福祉論	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は現代の社会福祉における重要な意義と役割をもつ地域福祉について、必要基準と考えられる知識体系を、理論と実践の両側面にわたって包括的にとらえる。①地域福祉の理念と内容、②地域福祉のサービス体系、③地域福祉の推進方法、④地域福祉の現状、⑤地域福祉の相談援助活動、⑥海外における地域福祉の動向、についての理解を深めることを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉論』中央法規、2000年。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> I 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 II 地域福祉の理念とその展開 <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉の理念の発達 ②地域福祉の概念と範囲 III 地域福祉のサービス体系 <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉のサービスのネットワーク ②地域福祉の構成 IV 地域福祉の推進方法 <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉ニーズの把握 ②地域福祉計画と財源 ③福祉教育 V 地域福祉の現状 <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉サービスの供給主体 ②地域福祉のマンパワー VI 地域福祉の相談援助活動 <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉の相談援助活動の意義と特質 ②地域福祉の相談援助の事例研究 VII 海外における地域福祉の動向 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>	

【授業科目】 施設処遇論	【担当者】 堀江まゆみ・高橋健一・和田清・中村稔・小林博
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 社会福祉基礎構造改革において示された利用者主権の政策を受けて、今後社会福祉施設のあるべき姿を模索する。 特に、福祉あるいは施設サービス利用者における「権利擁護」とは何か、「利用者主体の福祉サービスのあり方」とは何かについて、我が国における先駆的な取り組みである「地域型オンブズマン活動」（湘南福祉ネットワーク）と福祉実践を通して考える。	
【テキスト】 【参考書】 授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>今後の福祉サービスのあり方について、今年度は「権利擁護・利用者主体」をキーワードに授業内容を構成する。</p> <p>担当教員は、湘南福祉ネットワーク（Sネット）加盟施設の代表である。Sネットとは神奈川県茅ヶ崎市・藤沢市近隣エリアの高齢者・障害者／入所・通所複数施設の連合ネットワークであり、全国に先駆けて地域型福祉オンブズマン導入をはかるなど福祉サービス利用者の権利擁護実践を豊かに進めてきている。</p> <p>講義の中では、各講師の日頃の実践や今後の展望、あるいはSネットでの理念（権利擁護）をどう実践に移しているかについて具体的な事例を元に話す。簡単なゲームを通して権利擁護のあり方を考えたり、NHKで放映させたビデオの紹介（Sネット、知的障害者音楽バンド”サルサ・ガムテープ等）など、各講師が工夫ある内容を準備している。</p> <p>以下のような内容となるが、講師順については授業の中で提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス（堀江）：社会福祉基礎構造改革の理念、各施設・Sネットの概要 1講 ② 特別養護老人ホームにおける施設サービス論 （茅ヶ崎市 特別養護老人ホーム カトレアホーム施設長 高橋氏担当） 5講 ③ 高齢者の在宅支援におけるサービス論 （茅ヶ崎市 在宅支援サービス 施設長 和田氏担当） 3講 ④ 身体障害者施設における施設サービス論 （茅ヶ崎市 身障療護施設 水平線 施設長 中村氏担当） 3講 ⑤ 知的障害者施設における施設サービス論 （藤沢市 知的障害入所更生施設 湘南あおぞら施設長小林氏担当） 3講 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常点 ② 小レポート 	

【授業科目】 ホスピスケア概論	【担当者】 株本千鶴
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ホスピスの歴史や現状、ホスピス対象者の特性、日本および諸外国のホスピスの特徴などをまなびながら、〈よりよい死に方〉とはどういうものか、それを援助するのにどんな方法があり、またその方法には解決すべきどんな問題点が残っているのか、などを考えたい。どうじに、われわれが他者の死にかかわるといふことの意味についても理解を深めたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柏木哲夫『死を看取る医学』NHK出版、1997年</p>	
<p>【参考書】 谷壮吉・錦織葆著『最新ホスピスQ&A100』東京書籍、1999年</p> <p>佐々木隆志『日本における終末ケアの探究』中央法規、1997年</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. ホスピスとホスピス対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代医療と死に方の変化 ・ホスピスの歴史と発展 ・ホスピスの理念と定義 ・ホスピスの形態と内容 ・ホスピス対象者の心理過程 <p>2. 〈よりよい死に方〉とその援助～比較文化的な視点から～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈よりよい死に方〉と死の文化 ・〈よりよい死に方〉を追求する人びとと活動 ・多様な援助のしかた ・社会福祉とホスピス <p>* 随時、ビデオやプリント資料をもちいて事例を紹介する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポートから総合的に評価</p>	

【授業科目名】 カウンセリング	【担当者】 林 潔
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>福祉援助の方法の一つとしてのカウンセリングの役割について紹介します。 カウンセリングの分野を概括し、来談者中心カウンセリングと、認知行動療法を中心に授業を進めます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使いません。 指定図書：割り当てられた週に利用して下さい。 図書館に指定図書を何種類か、用意してあります。 1週間借り出して、簡単な内容紹介と、感想文をレポート1枚程度にまとめて出して頂きます。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの役割 悩む人と、悩ますもの（ストレッサー）について 2. カウンセリングの分野の概括 カウンセリング，心理療法と人間観 3. カウンセリングの進め方 VTRを利用します。 4. 来談者中心カウンセリング概説(1) 序 5. 同 (2) Rogersの適応論と人格論 6. 行動療法と認知行動療法 VTRを利用します。 7. 認知行動療法の概括 Beckの立場 Ellisの立場 8. 認知行動療法の技法(1) Self-monitoring, 他 9. 同 (2) 認知の歪みのチェック 10. 同 (3) 現実検証, 日誌, 思考停止法, 他 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点，中間試験，レポートで評価を行います。</p>	

【授業科目】 発達障害論	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害児・者の障害特性や行動特徴を理解し、援助のあり方や援助システムについて学ぶ。 2. 障害児・者施設および在宅支援サービスにおける発達障害児・者の援助実践について学ぶ。 3. 障害児地域支援事業における関連機関や連携システムについて学ぶ。 	
<p>【テキスト】【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜、提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>主に、発達障害児・者の障害特性や行動特徴について理解し、援助者としての現在の課題を考える。特に、重症心身障害児・者の「生きる」ということへの尊重や福祉サービスの実際に注目していく。授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害児・者に対する福祉サービスが今後めざすもの <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーションとインクルージョン ・「障害」「発達」概念の再考という意味 ・ライフサイクル／ライフステージからみた人生の創出 ・「自分らしい生き方」と自己決定権の尊重 2. 発達障害の障害特性と行動特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・「特別なニーズ」という概念 ・発達遅滞(知的障害)、自閉性障害をもつ人の理解 ・学習障害(特異性発達障害)をもつ人の理解 ・注意欠陥／多動症候群(ADHD)をもつ人の理解 3. 重症心身障害児・者が「生きる」ということの意味を考える <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者の動き・行動から「意思」を読みとる ・援助者に求められる行動予測 ・重症心身障害児・者への医療と福祉、教育の連携・実践 4. 障害児・者施設での援助の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児・者施設での療育・福祉サービスの実際 ・肢体不自由児・者施設での療育・福祉サービスの実際 ・重症心身障害児・者施設での療育・福祉サービスの実際 5. 家族とともに地域で生きることを支援する <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活援助のシステム(学童保育の実際、レスパイトサービス他) ・支援のための福祉サービスの実際 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席点 ②授業への参加態度 <p style="text-align: right;">から評価する</p>	

【授業科目】 言語発達臨床論	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護の対象となる子どもや大人の人たちの“言語”の問題について、臨床的な見方とかかわりかたを探る。かかわる人の人間関係の内容が両者の関係を深めていく、ということについて論じながら、考えて動ける介護福祉士をめざして構成する。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 その他、随時提供する。</p>	
授 業 計 画	
<p>介護の現場をできるだけ想定できるように構成する。内容の柱としては以下とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の対象となる人たちのコミュニケーション状況 2. コミュニケーションの基本的過程と鍵となる信号行動系 3. 臨床的な見方とかかわりかた、その技法を探る 4. 言語発達過程とその途中における挫折・問題とその見方 5. 失語症とかかわりかた 6. マヒ性構音障害とかかわりかた 7. 痴呆の問題と言語とかかわりかた 8. 介護の対象者とかかわる人の役割、人間関係を豊かにするかかわり 9. 両者のQOLを求めるかかわりかた、その基盤の考えかた 10. かかわりの技法を生かしていく人間関係の内容――まとめとして 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点とレポート</p>	

【授業科目】 視聴覚メディア活用法

【担当者】 八木絢一郎

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

この授業では、手描きの絵や紙芝居、ペープサートなどの身近な視聴覚情報手段と、写真やテレビなどの画像や映像、及び音響機器やコンピューター・グラフィックスなどの新しい視聴覚メディアを、利用者とその目的に適した使い方を理解させ、それらを使った自己表現の幅を広げる方法、遊びや学習、伝達などに活用していく方法技術と援助方法について学習させる。

【テキスト】

【参考書】

授 業 計 画

【 内 容 】

1. 視聴覚メディア活用の目的と意義
活用の今日的意義
メディア環境が及ぼす影響と課題及び方策
2. 画像・映像メディアの活用
画像の制作と活用
テレビ映像の視聴と制作及びその活用
造形と映像による併用表現
視覚メディアと遊び
3. 視聴覚メディアの活用方法の実際
手づくりの画像・映像の制作の仕方
コンピューター・グラフィックスによる自己表現の方法
メディアミックスによる表現方法の実際

【評価方法】

平常点

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619